

登場人物紹介ページ

忍者キャンプ弔幕 ～落日の日向～

立ちあがりし
忍者の血をひく者

2014 fall
11/22(土)～24(月・祝)

立ち向かうは
強大な闇

※この物語はフィクションです



登場人物紹介

■ 日向の里（ひゅうがのさと）

又八さん（ホントは、安芸 百八）

とにかく、ウワサ話が大好きな「日向の里 長老代理補佐」。

分かりやすく言うと「長老の代理の人を補佐する人」らしい。結構、里のことを考えており、それなりに忙しそうには見える。「里に活気がなくなったのは忍者がいなくなったから」と考えており、なんとか忍者が戻ってこないかいつも思っている。

【弔幕の中で↓】

ただのウワサ好きなおじさんと思いきや、実は「元日向忍者学校教頭 安芸百八」だった。

この10年間、突然記憶を失った忍者たちに向けられた「記憶喪失の術」を解くべく、色々な方法を試したがどれも上手くいかなかった。最後の手段として選んだのが、たくさんの「忍者の血をひく者」の力を借りて術を解くことだった。

忍法を知っているおじさん（師匠）

なぜか忍法が使える里のはずれにすんでいるおじさん。

記憶喪失になってしまっているようで、過去の記憶がなく話すことも出来ない。たまに怖い顔になっている事があるが、本人は気づいていない模様。

【弔幕の中で↓】

ものすごい忍術の使い手であることは判明したが「記憶喪失の術」がかけられている訳ではなく、少しボケていただけだった。

風のサッサ

一番始めに「記憶喪失の術」が解けた忍者。

元々「日向忍者学校」の教師だった。イケメン。得意分野は諜報活動。

陣風のコウ

安芸百八の息子。元々、忍者として優秀で百乃次一派（一幕に登場）に所属していた。

しかし、「記憶喪失の術」の影響で、百八同様、記憶はなくならなかったが漢字が読めなくなり忍術も中途半端になってしまった。

最近、村人たちから「山賊」と間違われていたのは「陣風のコウ」。

瞬速のイスケ / 月下のオサヤ / 宵のハルカ

元日向忍者学校の教師陣。「記憶喪失の術」で記憶がなくなっていた。

■ 風渡の里（かぜわたりのさと）

（雲の国に所属する忍者の里。日向とは、昔から仲が良い）

空野 雲海

風渡の里の忍頭。

百八同様、「記憶喪失の術」にかからなかった数少ない忍者。

八雲 ひかり

風渡の里の幻術が得意な一族の一人娘。

9才の頃に、「間久間（まくま）」にさらわれた。今回の「記憶喪失の術」は、ひかりが子どもの頃におどされてムリヤリ唱えさせられた「ひかりの唱えた術」であった。

現在は20才。もっとすごい術が使えるようになっているらしい。

■ 他の忍者衆

間久間衆（間久間忍者）

約10年前に、ひかりを誘拐しムリヤリ術を使わせていた忍者たち。ひかりの話によると、「あまりご飯を食べさせてくれない」連中らしい。

大昔の第一次忍大戦の時、日向を裏切り根来についた経緯はあるが、もはや教科書で習うレベルでの昔の話。なぜ、間久間が今回、このような事をしたのかは現段階では不明。

抜け忍・幻五郎（げんごろう）

元「三来図の国」の家老。国の家老になる前は、「日向忍者学校」の指導教官をしていた。（指導教科は、幻術・妖術等）約10年前の家老（国の偉い人）の時、国民からたくさん「年貢」を取りたて、自分のものにしてた。それに気づいた当時の日向忍術学校の先生や生徒たちが、「勇の書」を使って自分を倒しにくることを恐れ、日向の里ごと潰そうとするが、生徒たちの活躍により失敗に終わる。幻五郎の悪だくみが、国の姫様にバレたため、幻五郎は一部の部下と共に、国から逃亡した。現在はその行方を知る者はいない。

根来衆（根来忍者）

かつて第一次忍大戦のおり日向忍者と対決した忍者たち。

現在は平和条約が結ばれているため対立はしていないが、日向の里の中ではいまだ敵対視する声が多く、根深い。土遁の術を得意とする。

